

逍遙点描

— 絵と文・中嶋嶺雄 —



北アの秘境・雲の平

北アルプスの黒部源流に開けた広大な溶岩台地・雲の平は、長いあいだ日本アルプスの秘境として、登山者たちの憧れの地であった。今日では、雲の平に山小屋も建っていて、一般登山者もかなり入るようになったが、私がこのスケッチを書いた昭和30年頃は、一日中歩いていても誰にも会わない、といったところだった。

私は雲の平に二度入っているが、このスケッチは最初のときのものである。あとになってみれば何ということもなかったのだが、当時は失恋のショックで不眠が続き、大学受験はおろか、食欲も減退し、ようやく傷心を山で癒すことができた。その浪人時代に雲の平の奥の奥まで歩きまわった光景が、このスケッチを“発見”したとき、甘酸っぱく想い起こされたものである。

雲の平の山小屋は、北アの名物男・伊藤正一さんが、三俣山荘とともに経営しているけれど、伊藤さんは、たしか戦前に学生運動で松本高校(旧制)を退学処分になったとのことで、私は中学三年生のとき、やはり伊藤さんが持っていた大町の中山スキー場のヒュッテで、彼のギターと私のヴァイオリンでロシア民謡を居合わせたお客と一緒にストーブを囲みながら夜更けまで歌った記憶がある。雲の平には、高山植物の研究者として知られたじき田辺和雄博士もよく来ておられて、三俣山荘で御一緒になり、いろいろと御教示を得たこともあった。

私の山のスケッチは、こうして若き日の私自身の懺悔録だともいえよう。

(東京外国語大学教授)

ASIA MONTHLY

東亞

1990

8

No. 278

辺境の反乱

— 新疆ウイグル暴動と中国政治

日暮高則

[対談]

「人治」の背景

— 中国政治の現実

戸張東夫
唐亜明

講演記録

カンボジア和平の行方

三尾忠志



KAZANKAI